

芦安中学校前期自己評価書

令和元年8月30日（金）

南アルプス市立芦安中学校

1 前期自己評価の経過

（1）前期教職員対象アンケート（8月）及び生徒対象・保護者対象アンケートの実施（7月）

（2）アンケート結果の考察を基に職員会議にて改善方策の審議（8月）

小中一貫校への移行の観点から、昨年度より評価項目は基本的に芦安小学校との共通で実施した。

2 学校評価の分析と改善方策

（1）学校運営・学校経営

〔達成状況〕全体としては、良好な状態にあるといえるが、「報告・連絡・相談」は機能している面と不十分なところがある。PDCAサイクルにより、さらに充実した教育活動を展開していくためにも創造的・発展的な意見が出るように会議や打合わせをしていく必要を感じる。小中一貫（小中連携）の面から系統的・計画的で継続的な教育活動を効果的に行う面での難しさもある。

〔改善策〕学校運営にあたって各分掌の職員同士が連携を取り、相互依存しながら学校全体で取り組む意識を高める。小規模校ならではの特性をふまえ、教育活動が常に全職員の共通理解のもとで進められるようにする。

（2）学習指導

〔達成状況〕授業の「楽しさ」「わかりやすさ」を大切にし、『思考・判断・表現』の場を適切に設けて、より深い学びとなるように授業の改善を図る必要性を感じる。「相互依存による自立」「新しい価値の創造」等、学び方の指導に課題があるように感じる。

〔改善策〕「主体的・対話的で深い学びとは何か」を意識した授業の工夫および指導内容や指導方法の改善を組織的な研究をもとに推進していく。家庭学習の習慣化も含め、保護者との連携を工夫する。

（3）生徒指導

〔達成状況〕概ね良好な状態ではある。より安心・安全な学校を目指し、生徒・教師間および生徒間のより確かな信頼関係の構築することが必要である。

〔改善策〕自分の考えや意見を伝えるとともに、他者の話を傾聴する姿勢を生徒が持てるように、教職員が範を示し、信頼関係を深める。生徒の小さな変化に気づくことも含め、共感的な生徒理解に努め、効果的な指導とは何かを生徒の変容の面からしっかり見取る。

（4）保護者・地域との連携

〔達成状況〕「学校林植樹」「芦安新緑やまぶき祭への協力」「引渡訓練」等、PTA活動は充実してい

た。全校登山（鳳凰三山）は、生徒19名、職員8名、支援者10名、保護者等4名で実施でき、事前トレーニングや登山学習を計画的に行うとともに、下見をもとに支援体制を強化し、充実した登山をすることができた。

〔改善策〕ユネスコスクールとしてESD教育をする中で達成感や成就感、自然の素晴らしさや厳しさを実感できる取り組みを今後も考え、保護者・芦安ファンクラブ他の地域の方々の支援に感謝しながら、本校の特色を生かし、新たな伝統を創っていく。

〔5〕学校の特徴ある取り組み

〔達成状況〕地域人材の活用がある項目の評価がきわめて高く、その有用性を再認識する一方で、生活に密着した日常的な活動に関しては課題を残している。小中合同行事については、企画・準備・運営に改善の余地がある。

〔改善策〕日常の学校生活の充実を図ることが、生徒のさらなる成長へとつながるので行事運営だけでなく日常的な生徒会活動や委員会活動の活性化も進める中で、教育活動を展開していく。

重点課題

豊かな感性を、より豊かな活動によって培い、自分自身の気づきや他者の気づきをもとに、対話や表現から新しい何かが生まれるような土壌を創る。コミュニケーションにおける言葉の力についての生徒が理解できるようにし、豊かな表現を身に付けさせ、思いやりの心を育む。

学ぶ価値があるものに生徒たちをしっかりと出会わせ、学ぶ意義を感じられるようにする。生徒が主体的に学び、家庭学習にも有機的に結び付くように授業の工夫・改善を図る。また、教師自身が学ぶ姿勢をしっかりと示す。生徒の自治的な意識の高揚を図り、主体的な行動を促進により生徒の自己有用感や自己成就感を高める。

地域を知ることで「地域における自分」「集団における自分」といった視点を持ち、地域や集団への帰属感が高まる。地域とのつながりを考えるなかで中学生としてできることを実践する活動の場を設定する。

一人ではできないようなことでも相互依存することによりできることがあるという実感を持たせる。「相互依存による自立」「新しい価値の創造」を職員の協働体制や職員自身の経験から、生徒に伝えるとともに援助要請や支援の在り方についても生徒に継続指導する。